

日々はOracle APEX

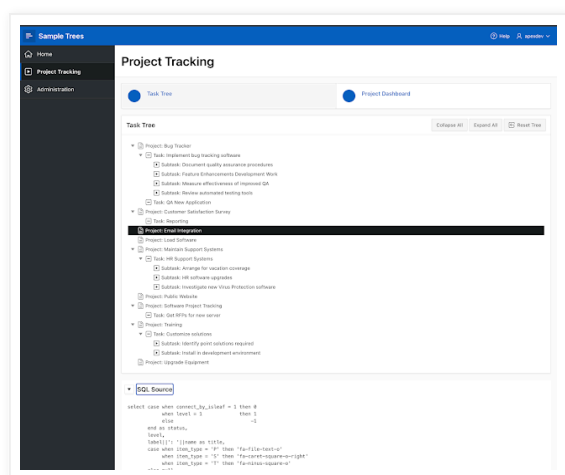
Oracle APEXを使った作業をしていて、気の付いたところを忘れないようにメモをとります。

2024年5月30日 木曜日

サンプル・アプリ Sample Treesのapex_util.prepare_urlを apex_page.get_urlに置き換える

ツリー・リージョンの実装サンプルとしてSample Treesが提供されています。このアプリケーションのツリー・リージョンですが、ソースとなるSELECT文にapex_util.prepare_urlが含まれています。

現行のAPEXでは、APEX_UTIL.PREPARE_URLの使用は推奨されていません。代わりにAPEX_PAGE.GET_URLを使うように案内されています。



APEX_UTIL.PREPARE_URLは引数としてURLを受け取り、それにチェックサムを加えます。一般にAPEX_UTIL.PREPARE_URLには、f?p URL構文によるURLを与えます。

Oracle APEX App Builder User's Guide 3.8.2 Understanding f?p URL Syntax

APEX_PAGE.GET_URLの呼び出しでは、アプリケーションID、ページ番号、URLに含めるアイテム名、その値などを、それぞれ引数として指定します。そのため、URL構文について考える必要はありません。

Sample Treesのツリー・リージョンのソースは、APEX_PAGE.GET_URLを使って以下のように置き換えることができます。

```
select case when connect_by_isleaf = 1 then 0
           when level = 1                then 1
           else                          -1
           end as status,
```

```

level,
label||': '||name as title,
case when item_type = 'P' then 'fa-file-text-o'
      when item_type = 'S' then 'fa-caret-square-o-right'
      when item_type = 'T' then 'fa-minus-square-o'
else null
end as icon,
id as value,
case when tooltip is not null then name||' - '||tooltip||'% complete'
      else name
end as tooltip,
/*
 * apex_util.prepare_urlをapex_page.get_urlに置き換えます。
 */
case when item_type = 'P' then
  apex_page.get_url(
    p_page => 'create-edit-project'
    ,p_request => 'T'
    ,p_items => 'P3_SELECTED_NODE,P7_PROJ_ID'
    ,p_values => id||','||id
  )
  -- apex_util.prepare_url('f?p='||:app_id||':7:'||:app_session||':T::P3_SELECT
when item_type = 'T' then
  apex_page.get_url(
    p_page => 'create-edit-tasks'
    ,p_request => 'T'
    ,p_items => 'P3_SELECTED_NODE,P9_PROJ_ID,P9_TASK_ID'
    ,p_values => id||','||link
  )
  -- apex_util.prepare_url('f?p='||:app_id||':9:'||:app_session||':T::P3_SELECT
when item_type = 'S' then
  apex_page.get_url(
    p_page => 'modify-subtask-information'
    ,p_request => 'T'
    ,p_items => 'P3_SELECTED_NODE,P10_PROJ_ID,P10_ROWID'
    ,p_values => id||','||link
  )
  -- apex_util.prepare_url('f?p='||:app_id||':10:'||:app_session||':T::P3_SELECT
end as link
from (
select 'P' item_type,
      t.label label,
      to_char(a.PROJ_ID) id,
      null parent,
      a.project_name name,
      a.status tooltip,
      null link

```

```

from eba_demo_tree_projects a, (select wwv_flow_lang.system_message('PROJECT') label from dual
union all
select 'T' item_type,
      u.label label,
      to_char(b.proj_id)||'-'||to_char(b.task_id) id,
      to_char(b.proj_id) parent,
      b.task_name name,
      null tooltip,
      b.proj_id||','||b.task_id link
      from eba_demo_tree_task b, (select wwv_flow_lang.system_message('TASK') label from dual) u
union all
select 'S' item_type,
      v.label label,
      to_char(c.proj_id)||'-'||to_char(c.task_id)||'-'||to_char(c.sub_id) id,
      to_char(c.proj_id)||'-'||to_char(c.task_id) parent,
      c.sub_name name,
      null tooltip,
      c.proj_id||','||c.rowid link
      from eba_demo_tree_subtask c, (select wwv_flow_lang.system_message('SUBTASK') label from dual)
)
start with parent is null
connect by prior id = parent
order siblings by name

```

source-sample-trees.sql hosted with ❤ by GitHub

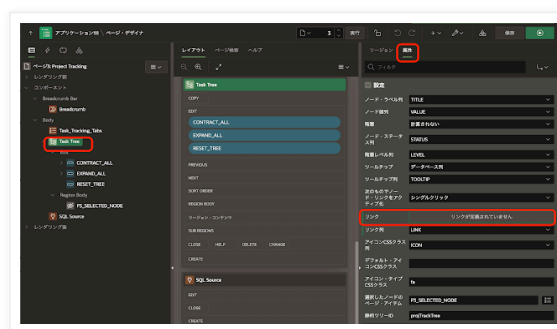
[view raw](#)

Sample Treesでは、ノードのタイプに依存して開く編集フォームを切り替えるために、ソースのSELECT文でAPEX_PAGE.GET_URLを呼び出しています。

ITEM_TYPEがPであればcreate-edit-projectのフォーム、Tであればcreate-edit-tasksのフォーム、Sであればmodify-subtask-informationに遷移します。

一般的にAPEX_PAGE.GET_URLの引数と、ターゲットをクリックすると開くリンク・ビルダーの設定項目は1対1で対応しています。

ツリー・リージョンの場合、属性の設定のリンクでノードをクリックしたときに遷移する宛先を設定できます。



リンク・ビルダーの設定項目は、APEX_PAGE.GET_URLの引数に以下のように対応します。アンカーは、APEX_PAGE.GET_URLに対応する引数はありません（コードからは、生成されたURLに文字列としてアンカーを追加できるため）。

対話モード・レポートなどのレポートの場合、**アイテムの値**（引数p_valuesに与える）にレポートの**列の値**を割り当てることができます。Sample Treesのソースがレポートのソースだったと仮定すると、検索結果に含まれる列**ID**や**STATUS**は**#ID#**、**#STATUS#**として参照することができます。

しかし、ツリー・リージョンの場合はレポートの表示とは異なり、レポートとして参照できる列はありません。そのため、p_valuesに渡す値は、ソースとなるSELECT文で指定する必要があります。

また、P、T、SといったITEM_TYPEの種類によって、ターゲットとなるURLだけではなく、p_valuesの値も変わっています。

Pの場合は、P3_SELECTED_NODEにid、P7_PROJ_IDにidが渡されています。Tの場合は、P3_SELECTED_NODEにid、P9_PROJ_IDにproj_id、P9_TASK_IDにtask_id、Sの場合はP3_SELECTED_NODEにid、P10_PROJ_IDにproj_id、P10_ROWIDにROWIDが渡されています。

このような切り替えは、宣言的なターゲットの設定ではできません。

今回の記事は以上になります。

Oracle APEXのアプリケーション作成の参考になれば幸いです。

完

Yuji N. 時刻: 14:22

共有

<

ホーム

>

[ウェブ バージョンを表示](#)

Yuji N.

日本オラクル株式会社に勤務していて、Oracle APEXのGroundbreaker Advocateを拝命しました。
こちらの記事につきましては、免責事項の参照をお願いいたします。

[詳細プロフィールを表示](#)

Powered by Blogger.
